

かつたらう。加賀の色繪は京の友禪以前に初つてゐるかも知れない。

**カガリビワタシ** 篝火渡 珠洲郡懸路なる白山神社の秋季祭に、夜に入るとき海岸の岩角から辨天島まで篝火を運ぶ神事をいふ。

**カガワカメ** 加賀若和布 日用三昧記天文九年卯月三日の條に『自興禪加賀若和布一折惠之』とある。こは江沼郡橋立・小塩の海に産するものなるべく、大聖寺ではおしきめとて名産としてゐる。

**カカンシヨウセツ** 可觀小説 二十五冊。青地禮辭著。此の書は著者の見聞したこと、讀んだもの、拔萃、他から受けた消息の寫等を記したもので、誠に内容の雜然たるものであるが、元祿・享保の世態がわかり、殊に著者の師室鳩巢晩年の生活状態が明らかにせられる。その最初の二冊は、鳩巢小説の名に於いて版行せられてゐる。隨つて可觀小説を鳩巢の著である如く解説したものも少くないが、それは全然誤謬である。

**カキ** 柿 加賀には昔から柿樹が多く培養せられてゐた。その種類には、黒瀬・知氣寺・妙林・米永・平松・倉光・保古等で、これ等は皆石川郡の地名であるから、特にこの郡の産の良かつたことがわかる。

**カキウチ** 垣内 ↓カクチ 垣内。

**カキウチウニン** 垣内雲麟 カイト 垣内右隣の子。名は徹。飛騨の畫家。雲麟・右竹・錦嶺の號があつて、塩川文麟に就き、四條派の畫を能くした。明治廿四年から卅四年まで金澤に來住してゐたが、大正八年七月十七日七十四歳を以て東京に歿した。

**カキウチウウリン** 垣内右隣 カイト 名は

直道、字は君行。飛騨の畫家。岡本豊彦及び塩川文麟の門人で、明治初年金澤に來住し、廿四年八月廿七日六十七歳で歿した。

**ガキガノド** 餓鬼ヶ咽 白山市ノ瀬口登路の別當坂から上に在る。標高一八五〇米。越前名蹟考に『是より別當坂といふ。餓鬼ヶ咽といふ狭き岩屋を過ぐ』と記する。

**カキガハラ** 柿原 鳳至郡藤卷の内の小字。カキゾメ 書初 藩政の頃、正月二日少年等書初をなし、之を歳徳神に捧げた。男兒の試筆は『春風春水一時來』の如き佳句を撰び、傍に歳徳大神と記し、女兒に在つては『新玉のとしの始に一ふでそめし』の如き短文に歳徳御神と書添へ、末端に姓名を署し、共に奉書紙を用ひた。歳徳の神棚を撤した後、この書を土器に入れて蒸焼とし、灰燼を果樹の根に散布するときは、夏季に至りて虫害を免ると言はれた。

**カキダ** 柿田 珠洲郡中(部落名)の内の小字。

**カキノウラ** 垣ノ浦 鹿島郡笠師の内の小字。  
**カキノキシヨウジ** 柿木小路 金澤の舊町名。野町二丁目の小路から舊湯場町の間をいうた。今は南石坂に屬してゐる。昔前田利常所々に柿木畠を置かれた頃、此の地にもその植付を命ぜられたから此の名があるといふ。

**カキノキバタケ** 柿木畠 金澤の町名で、今は宮内橋の邊から、南は野町口菰屋橋を境ひ、西は御厩橋までの間を上柿木畠とし、それより香林坊橋までを下柿木畠といふ。昔は此の邊すべて防火の爲に、柿木を植えて置いた故の稱で、その邸地となつてからも町名として残つたのである。

**カキノキマチ** 柿木町 金澤の町名。舊傳に、昔前田利常の時、諸方に柿木畠を置かれた頃、此の地にもそれを植ゑられたが、後畑地を廢して地子地とし、民家を建ててに至つたといふ。

**カキフ** 柿生 鳳至郡山田郷に屬する谷屋・吉谷・神道は、明治八年十月併合して柿生と稱することにした。邑名は神道に柿を名産としたによる。

**カギマチ** 鍵町 金澤の舊町名。元祿九年の本町肝煎裁許附に新町・鍵町と載せて一裁許とするから、當時は鍵町も新町の内であつたのであらう。

**カキヨシ** 垣吉 鹿島郡高田保に屬する部落。

**カキラジンジャ** 柿尾神社 珠洲郡行延に鎮座する。式内等舊社記に『柿尾神社。木郎郷行延村鎮座。稱『柿尾七社明神』』とある。

**カクエイ** 廟榮 金澤時宗玉泉寺四代。僧階は其阿。元祿十年四月十八日他界。

**カクエイジ** 覺永寺 羽咋郡西谷内に在つて、眞宗東派に屬する。もと同郡河内に居たことがある。

**カクオウ** 覺願 金澤時宗玉泉寺三代。僧階は其阿。元祿九年四月八日示寂。

**カクオウイン** 覺皇院 鳳至郡廣瀬に在つて、曹洞宗に屬する。もと總持寺山内傳法院所屬で、應永六年大徹宗令之を創建した。

**カクオウエトウ** 覺翁慧等 尾張の人、父は前田大岳居士。十三歳にして常樂寺の材長春良に從うて下髪し、出遊して大圓慧展に謁し、梅山和尚所傳の法衣を付せられ、席を躍いで加賀玉龍寺に住した。天正中前田長種聘して龍潭寺の主とし、金剛寺の創建せられるに及んで開山となり、慶長十五年五月十八日寂。

**カクカイシンゼン** 覺海眞禪 石川郡曹洞宗大乘寺五十代の住持。羽州の人、壽仙寺智海に受業嗣法し、同國永泉寺に首職となり、後總持寺に奉勅した。初め奥州の洞松寺、次に羽州の長谷壽仙、越中の光禪・信濃の頼岳等に轉住し、文政六年春大乘寺に入り、六月朔日開堂演法したが、一住五年の後、信濃宗湖寺に退隱し、文政十一年十二月廿三日寂。

**カクケン** 覺賢 藏人所の繪師で、建保三年白山本宮の神像を畫いたことは白山宮莊嚴講中記録に載せられ、その神像は現に存して重要美術品に指定せられてゐる。今その箇中に別に古い軸木が添へられ、それに『藏人所繪所覺賢淡路公筆』と書いた張紙があり、又『于時寶徳元年卯月三日奉修補之、代錢貳貫也。月勅進了覺坊行俊』『當一和尚禪果覺乘坊。花藏坊禪忠弟子也。了覺坊北十如房修補之。』『大和國泊瀬住宰相將監』と墨書せられてゐる。將監は經師で、張紙はこの修補の際建保三年の表裏裏を切取つて貼布したものであらう。然るに近年再修補が行はれた爲、寶徳の軸木を取外して上箱の中に收めて置いたものである。現在の表裏裏には『于時明治三十二年十月二日奉開眼白山三大神尊像大阿闍梨覺進』とあるから、その事が考へられるのである。

**カクゲンジ** 覺源寺 金澤中主馬町に在つて、法性山と號し、淨土宗に屬する。もと法島川原に在つて、慶安三年念蓮社專譽の傳が之を創立した。天明六年五月住持が女犯の爲

# カカ—カク